

南三陸発!

2024年度 公開シンポジウム その1

慶應の森からひもとく 生物多様性

公開シンポジウム概要

2024年度慶應義塾未来先導基金による「みなさんmiraiプロジェクト」。キャンパスを飛び出し、自然の中で、生命や社会を考える学びの循環を作るのが目的です。今年の本プロジェクトの舞台である、慶應の最大の学校林に注目します。南三陸町にあるこの森、いったいどういう森なのか。そもそも南三陸の森はどのようなポテンシャルを秘めているのか。慶應チームが行ったドローンを使った撮影による森林の分析結果、そして、海と森が循環する「いのちめぐるまち」を目指す南三陸町で行われている、森を活かす取り組みについてお話しを伺います。それぞれの立場、興味で、ぜひ森を活かす未来について、議論に参加してください。

プロジェクトの詳細はこちら



一ノ瀬 友博 (いちのせ ともひろ)

慶應義塾大学環境情報学部・学部長
日本景観生態学会副会長
環境情報科学センター理事
農村計画学会顧問

都市における生態的ネットワーク計画手法、持続可能な農村地域の再生、日本におけるグリーンインフラストラクチャーのあり方について調査研究を行っている。

「慶應南三陸の森における自然環境モニタリング」

環境情報学部一ノ瀬友博研究室では、2023年度から南三陸の森における自然環境モニタリングを開始した。ドローンによる空撮、鳥類、哺乳類、昆虫類調査などを実施してきた。その結果について紹介し、南三陸の森がどのような森であるのか議論したい。



鈴木 卓也 (すずき たくや)

南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト協議会会長
南三陸ネイチャーセンター友の会理事

南三陸地域の自然環境の調査、保全、普及に携わる。

絵本「イヌワシの棲む山」ストーリー執筆、「南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト」立ち上げなど。

「イヌワシの立場で考える南三陸の山の環境」

20年前には4ペアが生息していた南三陸地域のイヌワシ。急激に数を減らし、いまは1ペアも見られません。慶應南三陸の森を含む翁倉山域でもペアが消失しています。なにが彼らを追い詰めたのか？イヌワシ目線で解き明かします。



2024年

5/13月

18:15~20:00

定員100名

定員に達し次第締め切ります

対面

登録制

無料

シンポジウム

参加申込み

締切

2024年5月12日



5月28日(火)に、
防災について考える、
公開シンポジウム
その2
があります!!

場所：慶應義塾大学 日吉キャンパス 来往舎
シンポジウムスペース

*「みなさんmiraiプロジェクト」第2期生に応募する塾生は参加してください。

主催：慶應義塾大学 教養研究センター（慶應義塾未来先導基金）
問い合わせ先 toiwase-lib@adst.keio.ac.jp